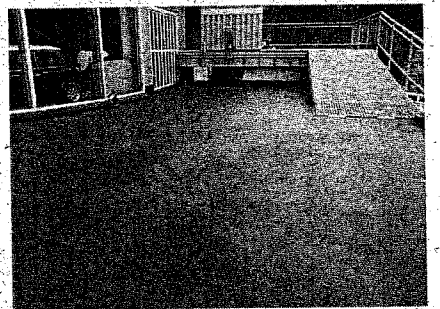


の性能レベル著しく向上

証を強みに持つ海外技術も続々と上陸

ビルを長寿命化 最新「防水」技術

梅雨・台風シーズンは目前。建物躯体を雨から守る、まさにビルの長寿命化を図る「命綱」といえるのが屋上・外壁防水だ。アスファルトや防水シートなど様々な技術が存在するが、既存工法の弱点を補う形で今も進化を続けている。そして、海外からも多くの防水工法が押し寄せてきているのが現状だ。



▲「ポリウレア吹付樹脂コーティング」による防水施工

を務める緒方修一氏は「ホムペー」一樹脂素材であるポリウレアはほとんどの建材に「驚きを隠せなかった」と、コーティングでき、吹き付けてから5〜20秒程度で硬化する。耐衝撃性に關してはアメリカ軍の戦闘ヘリコプターの燃料タンクの保護に利用されている」と説明する。平成27年4月からライノジャパンが日本の総販売代理店となり、全国展開している。「ポリウレア」も採用の決め手という。

ライノジャパン



代表取締役 緒方 修一氏

水が一切漏れない「ポリウレア」

5〜20秒で硬化し工期を大幅に短縮

大阪市を中心に事業展開するリフォーム業者が参画する団体、大阪府ビルリフォーム協同組合(大阪市区)は建築物

のリニューアルに関する様々な工法を組合員に提供しているが、ライノジャパン(東京都新宿区)が全国展開している防水工法「ポリウレア吹付樹脂コーティング」の最大の特長は「速乾性」と「耐久性」に他ならない。ライノジャパン代表取締役

の知名度が急上昇したのが地上波テレビ番組の影響だ。昨年8月TBS系列「波つちりマンデー」で取り上げられたが、その実験内容に注目が集まった。ダンボールの内側にポリウレアを吹き付け、水を注いでもまったく漏れない。さらに水の表面にも吹き付けると塗膜ができ、完全に密閉された状態で人が乗ってもビクともしなかった。緒方氏は「テレビ放映後に問い合わせ

を止める必要がないので営業間で施工できるので、短時間で施工できるのが営業の決め手という。コンクリートのひび割れ(クラック)対策にも用いられている。緒方氏によると「一般的なエポキシ樹脂は地震動で破壊する可能性が高いが、ポリウレアの伸縮性は50%に及び、地震動にも追隨する物性を持っている」とのこと。また、無溶剤・無触媒で人体にも無害であり、海上石油基地パイプラインや貯水タンクの防蝕対策、海沿いの建築物の塩害対策にも採用されている。